婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

- 最大數の最大幸福
- 宗教家と社會事業
- 經濟的獨立と
- シユライネル女史
- 榮爵公職と不肖の子
- 矢島梶子女史の秘密に就て
- ―編輯の後―

大正十四年六月廿三日印刷納本

毎月一回一日發行　第六十四號　大正十四年七月一日發行

東京府　婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最大數の最大幸福

人間の行爲のうちの最善なこと並びに最悪なことが宗教の名の下に行はれてゐたために、人は、超自然の宗教のみが大衆を迷はすと云ふようになつた。

けれども、近代の歴史を通じて見ると、最早、大衆は神を信じないと云ふことは出來るが、同時に、他の種類の神、則ち、權力と云ふ神、金力と云ふ神、進化と云ふ神、人類と云ふ神、國民と云ふ神、又は、國家と云ふ神を信じ、そして、それ等の神こそ大衆の幸神を實現すると云ふような信仰を持つようになつた。

處で、有史以來の大罪とも云へるあの歐洲大戰爭はさう云ふ種類の神の名によつて行はれたものであつた。そして、其の結果は、何等の幸福をも齎さないのみならず、關係諸國の大衆の家庭を悲慘な狀態に陥れた。つまり、最大數の最大幸福の代りに最大數の最大不幸を齎したのであつた。で、此處に再び大衆の意識は最大數の最大幸福と絶叫するようになつたのである。

最大數の最大幸福とは最大數の『家庭の團欒』と云ふことである。そして、これが直ちに一國力のの測定計である。

宗教家と社會事業

この頃、宗教界も大いに社會的に目覺めて來たと云はれ、いろ〳〵の社會施設が計畫されてゐるように新聞は報導して居ります。

これは、善いことであるに相違ありません。善いことではありますが、併し、それは丁度、陳腐なことをひつくりかへす習慣が今の文學に現れて來たり、公會堂に於て所謂憂國の士の叫びが擧げられたり、折り〳〵のストライキがあつたりすることが新時代を生み出すために全然無用ではなくとも、併し、それ等は今日の此の不安に滿ちた世界を造り直す血でもなし精神でも無いのと同じようなものでは無いでせうか？　僅かばかりの食ふに困まつてゐる人々に食べさせたり、家出した女達を保護したり、職業の世話をしたりすることは、全然、無益ではなくても、併し、それによつて國民の精神的貧血病を直すことは出來ないと思ひます。

食ふにも困つたり、又は、家出したりしたような者を、先づ經濟的に救ふて、それから精神的に救はふと云ふのも一つの意見ですが、併し、それよりも、もつと有効な方法は、食ふにも困つたり

家出したりしない前に宗教的目覺めを促して置くことでは無いでせうか？

宗教的目覺めは春機發動期に始まると云はれてゐます。子供時代から青春期に入らうとする頃になると何物かにあこがれを持ちたいようになり、今迄、無心でゐたのが考へるようになります。たとへば、めくらが急に目を開いたと云ふ狀態になります。

そして、始めて目を開いて見る世界が皆赤ければ世の中は赤いものだと思つてしまいますし白ければ白いものだと思つてしまいます。

と、申ましても、さア、春機發動期が近くなつたから宗教的精神を注入しようと急に企てゝも、其れでは間に合ひません。

其の時期に達する以前から、云ひかへれば、もの心が付いた頃から宗教的の教育を授けられて居つて、無意識のうちに宗教的精神を吸收して居ることによつて、春機發動期に達した時に立派に宗教的に目覺むるのだと思ひます。

松の葉を食べて大きくなつた虫は薔薇の木の上では生活出來ませんし、薔薇の葉を食べて育つた虫は松の木の上では生きて行かれないと同じように、宗教と云ふ精神的の食物を幼年時代から與へ

られて居た子供は宗教無しには 生きて行かれないでせう。凡ての子供が青年に達して宗教無しには生きて行けないと云ふようになつた時に國家の道德的基礎は堅固になります。

そして、宗教家の偉大なる使命が此處にあります。けれども、今迄の宗教家の凡てが 皆此の使命に忠實であつたかどうか？ 疑ひなきを得ません。私は米國へ行きまして基督教の教會へ接近する迄宗教と云ふ言葉さへ知らずに居ました。私が故鄕を出たのは十八の時でしたが、そして、私の生家の近所にはお寺が四つもあつて、佛事供養には勿論のこと、僧侶達は始終話しにも遊びにも來ましたが、宗教的氣分を私達に與へようとはしてゐませんでした。年頃になつた娘達をからかいこそするが、併し宗教の精神を少年少女に注入しようなどと云ふ態度は少しも無かつたようです。今、この年になつた私が宗教とは何であるかを知らないのならば、それは、全然、自分の怠慢であることを承諾します。けれども、無心でゐる子供から娘時代になる迄、朝に晩に僧侶に接近してゐながら其の僧侶から何等の宗教的感化を受けなかつたと云ふことは、其の僧侶の怠慢であつたと斷言しても過言ではないと思ひます。

鎭守樣は一年に一度か二度提燈をつけて、屋臺店が出て遊ぶ處、お寺は死人を扱つたり爺さん婆

さんがあつまつてふざける處だと思つてゐましたが、凡ての村や町の凡ての少年少女に其の位ひの印象しか與へないようなお宮やお寺であるならば、實際、存在の價値は無いものです。

銀行乃至郵便貯金局は國民の貯蓄を奬勵して將來の缺乏に備へさせ、貧乏の苦痛を嘗めさせないようにするのが使命です。軍備は國民の安全を期するために敵に備へるものです。そして、寺院乃至教會は國民の精神の力を集中し、保存すると同時に其の精神の力を傳播する處です。つまり、精神的に貧乏な人々に精神の力を供給するのが宗教家の大きな使命の一つです。

銀行乃至貯金局が國民の金を安全に完全に保管しないならば、其の銀行乃至貯金局は存在の理由がありません。又、存在せしめられません。陸海軍が國防の任務を果さないならば國民は税金のかたちで、又は、徴兵の　かたちで、陸海軍に奉仕することを抗むでせう。僧侶階級、又は、寺院に對しても殘念ながら其れと同じことが云はれるのであります。

自然淘汰か、人爲淘汰か、とにかく、現世を超越してゐるように見ゆる宗教界にも、矢張り淘汰の理法は行はれるのです。

今日の我が國の少年少女は幼年時代から宗教的の何ものも與へられず、どう云ふもので心を養は

れてゐるかは彼等の讀物を調べて見ればすぐ分ります。そして、春機發動期に達して目を開いた時に彼等の目に映るものも病的な過激思想や淫蕩的な小説類でありまます。

そんならば今の青年男女が過激思想に毒され、淫蕩に流れて行くのは、むしろ、當然ではありませんか。

もし、それ等の過激思想や小説類の代りに宗教の精神が彼等の目に映るばかりでなく、其の精神が彼等の心の中に深く喰ひ入つて居るならば、嫌やでも應でも彼等は宗教的の人間になつてしまうでせう。

今日の墮落してゐる國民の精神を復活させるには凡ての宗教家が自分の周圍の凡ての少年少女に宗教的精神を吹きこまなければならない。

國家の政治的又は經濟的組織の勢力に對抗して國民道德の基礎を堅固にするため、宗派の如何を問はず大同團結をして、國民の物質側を主宰する政府と對等の位置を占めてゐる位ひにならなければならず、同時に、帝都に於ては勿論のこと、津々浦々迄も、病的な過激思想や淫蕩文學が這入り込む餘地が無いように宗教の精神をふんだんにしなければならない。

要するに、今日の物質主義、過激主義、淫蕩的文學にむしばまれてゐる國民の精神を復活させるために日本全國を輝しかゞやかすだけの松明をかざして頂きたい。同時に、次の國民の苗床である各家庭に心を留めて、青年期に達する迄も宗教と云ふ言葉さへ知らないような者が一人でもあることは宗教家の怠慢であると云ふことを宗教家に自覺して頂きたいと思ひます。

經濟的獨立とシュライネル女史

婦人運動史のうちの一巨星オリーヴ・シュライネル女史は一九二〇年十二月十日南亞弗利加ケープタウンに於ける一旅館の一室に於て靜かに瞑目されましたが、それから四年後の昨年、女史の良人クロンライト氏の手になつた女史の傳記が出版されました。

其の序文に於て、クロンライト氏は云つてゐます、「オリーヴは「眞實な傳記などと云ふものは書けるものではない。自分で書いたのでなければ。其の自傳でも公平な神の目の前で書いたのでなければ」と云つてゐたから彼女の意志を問ふなら、彼女は傳記は書いて貰いたくないと云ふだらう。けれども、彼女は誰かの手によつて自分の傳記が書かれるだらうことを豫想したと見へて、死ぬ二

三年前に私に云つた。「もし、私の傳記が殘されねばならぬと云ふようなことになるなら、それはあなたに書いて頂きたい。もし、あなたに出來なかつたら昔からの私の友人ハヴロック・エリスに賴んで頂きたい。」と。で、彼女の死後、早速ハヴロック・エリスに問ひ合せた處が、今、彼は此の仕事に取りかゝるわけには行かないと云ふ返事であつたから私は自分で書かなければならなかつた。でないと、必ず、外から不正確、不完全なあてにならないオリーヴ・シユライネル傳が現はれるに相違ないから。』と。

讀んで行くうちに女史に對するクロンライト氏の誠實、健康を害してゐる女史に對する氏の心遣ひ、熱淚などがヒシ〳〵と私共の胸に迫まつて來て覺へず目が熱くなつて來るのを感じます。そして、或箇所迄讀み進んで行つて『オリーヴは自分の資力が續く間は生活費に付てなか〳〵キチヨウメンであつた。どんなに僅かなものでも共同で使用したものは必ず私に半分負擔させるし、自分もキチンと半分仕拂つてゐた。けれども、彼女の健康が彼女に仕事を許さないやうになつてからは二人の費用の全部を私が支拂ふようになつたので、彼女はじようだん半分に「私もとう〳〵『寄生虫』になつてしまつた」と云つた。』と云ふ處を讀むに至つて私はハタと或るものに突き當つたような氣

持ちがしました。

私が云ふ迄もなく、『寄生虫』と云ふ言葉は女史の發明にかかるものであり、そして、『經濟の獨立』と云ふことが女史にとつては婦人問題解決の基本であり、根本原理であつたのですから、それを自分の實生活に實行しようとしたことは立派なことであるに相違ありません。言行の一致を缺く多くの婦人と比較した時には其處に見逃し得ない光彩が放たれてあることは事實ですが、併し、それはそれとして、女史の生前に於ては勿論のこと女史の死後に於ても、女史の精神を熱愛し、女史の人格を追慕して止まぬクロンライト氏が女史の生活費を負擔したと云ふ事實は餘まり小さなことで問題とするに足らないと云ふことを私は云ひたいのです。

つまり『婦人の經濟上の獨立』の總本山なるシユライネル女史自身は『經濟上の獨立』を徹底させなかつた。と云つて、私はこれをもつて女史自身の價値を低くしようとするものではありません。

女史が經濟上の獨立を一生涯堂々と爲し終はせたと云ふことを聞くよりも、それは無くとも病弱なる彼女の晩年をいたはり援けてゐた忠實な良人があつたと云ふことを聞かされる方が私共にとつ

てはどんなに愉快だか知れません。女史自身にしても其の方がどんなに幸福であつたか知れないと思ひます。

殊に、その良人の女史に對する追慕の念が菊版四百有餘頁の傳記を書かせたことを思ふ時に此の夫妻の間の經濟問題は此の夫妻の全生活のうちのほんの僅かの一部分に過ぎないと云ふことを痛切に感ずるのです。

して見たならば、私共人類の本當の喜びとするもの、私共人類を幸福に潤ひあるものと爲すものは經濟上の問題より精神的の問題、云ひ直せば經濟上の獨立よりは夫婦關係の圓滿と云ふことです。

シユライネル夫妻の場合が示すように、經濟問題は全生活に於けるほんの一部分、つまり、さしみのツマに當るものであるような夫婦關係を現出するのが私共の目的であつて、其の目的のために經濟的の仕事に附くもよし、捨てるもよしであつて、其の經濟的の仕事のために精神的の問題を犧牲にするのは愚かなことだと私は云ひたいのです。

榮爵公職と不省の子

北里男の長男が情死を計つて、又々、問題を提供しました。それに續いて北里男自身の榮爵及び公職を退くかどうかと云ふことが問題となつてゐます。

詳細に考へて見るならば、實は、我が子であつても自分の思ふ通りに行くものではない。先代からの遺傳の力が強く子に現はれてゐるために又は社會の感化力が我が家庭の感化力よりも強い ために子が不出來である場合もあるのに親にのみ其の責任を負はせるのは 妥當でないようにも考へられなくはありません。

けれども、さうばかり考へて居つたのでは責任の歸する處が不明となり、世人を歸趨に迷はしむることになりますから、矢張り、親が責任を負はねばなりますまい。且ツ、又、先代からの惡遺傳及び社會の惡感化力に對抗して 家庭の感化力を優勢ならしむるのが親の責任で無ければなりませんから。

殊に、北里男の場合のように、國民に模範的行爲を示す義務を有する 榮爵者が不肖な子供を我が家庭から出して榮爵者としての義務を果さなかつた時、又、道德的方面ではなくとも、とにかく、他人の子弟の教育者として立つてゐて、しかも、自己の子弟を教育し 得なかつたことが證明された

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時、其の榮爵及び公職を辭退するのは當然でありませう。

中流以上の家庭の紊亂は今更ながら世間の視聽を集めつゝあります。魔風戀風が花柳界にのみ吹いてゐたと思つたのは昔のこと、道德の過去の標準が打破されてしまつた今日に於ては惡を惡と思はず、淫蕩を淫蕩と考へず、淫風は至る處に吹きすさむようになりました。東京市外の××町の全戶數の三分の一は妾宅であると云ふ評判を聞いて驚いて調べて見ると矢張り其の通りであつたと云ふことです。

妾宅と云へば、それは、主もに中流以上の男子の持ちものに相違ないのです。こう云ふ淫奔な上流社會から藝者と心中する子弟が現れるのは、むしろ當然でありませう。

ひとり北里氏が其の責めを引くと云ふのも可笑しな話ですが、併し、其の淫奔の事實が一度社會の問題となつた以上は、氏自身が屬する階級の一代表者となつて氏が社會的制裁を受けるのも亦當然な成り行きでありませう。

併しながら、榮爵公職一切を投げ出したからそれでよい。不省な子を出した罪は償はれたと考へてはならないと思ひます。なぜなら、それは單なる形式であつて、實質に於ては何にも償はれてゐ

ません。世間を騒がせたこと、相手の女を死なしめた罪の償ひとはなりません。

が、もし、北里氏が氏の所有するものゝ一切――富及び醫師としての技能――を全部投げ出して公共のために盡さるゝならば氏のため並びに社會のために幸福の増進となるでせう。そして、過去の罪は償はるゝであろうと考へられます。（六月十九日）

矢島梶子女史の秘密に附て

逝ける矢島梶子女史に秘密が二ツあつた。けれども、女史が其れを公表しなかつたと云つて徳富健次郎氏は非難らしい口吻をもらして居られますが、併し女史は殊更にそれを秘しかくして聖人ぶつて居られたのか？それとも、かくすつもりは少しもなくとも其の傷の痛みは輕々しく口へ出すに耐へないと云ふのであつたのか？　其の邊のことを私は考へて上げたいと思ひます。

世間にはよく自己の過失を、自己の淫蕩を誇らかに平氣で物語り得る人があります。『私は罪人だ』。『私は惡人だ』と廣告して口輕に自分の犯した罪を物語るのを聞く時に、殊に其れが文學のかたちとなつて賣物にされる時に私は其の人の良心をいつも疑ひたくなります。心の痛みを少しも

見ることが出來ないから、其處には悔ひ、又は、自責と云ふようなものを認めることが出來ません。それに反しては、云はふとしても口に出すことが出來ない程、深刻に悔ひを感じ無言のうちに一人で苦しんで居る人が一方にあります。そして、さう云ふ人に私は本當の人間らしさ、貴さを見出しますが、矢島女史は此の後者に屬する人ではなかつたでせうか？

過去の罪を悔いてゐるか居ないかは、告白するかしないかによつてよりも、其の後の行爲によつての方がよりよく證明されると思ひます。そして、矢島女史の其の後の四十有餘年の生活によつて其れを悔ひて居られたろうと判斷して差し支へないし、又、其れを償つて充分なるものであると思ひます。

「獸性と神性との間の境界地に藝術は榮へる」と云つた人がありますが、實に人間が皆獸類と等しい者であるならば、或ひは、又、皆神樣のようになつてしまへば、人間社會には何にも問題はないのですから、人間としての弱點があつたと同時に、其の弱點に打ち勝つだけの意志の力が一方にはあつた。そして、遂には其の弱點を征服してしまつたと云ふ處に無限の教訓があるのではないでせうか。

編輯の後

「寄席の味を知らなくちや本當の日本は理解できないよ」と私達の友人の一人は寄席の敷居をまたいだことのない私達にいつも申します。私達だつても藝事は好きです。自分を生んだ國が育てた藝術を嫌ふわけはありません。藝事其のものを決して嫌つてゐるのではないのですが、その藝をする藝人の淫奔そうな顔を見るのが嫌やなんです。貴重な時間をつぶして迄彼等に接近して行くことは如何にも馬鹿々々しいのみならず、何だか自分に對しても申わけがないような氣持ちがして居るのです。そして　今度の杵屋の問題が私達の日頃の考への間違つてゐなかつたことを充分に證明して餘まりがあります。

西洋でも昔は藝人は卑しめられてゐて、俳優などは、我が國で云ふ「河原乞食」と云つた風に見られてゐたものだそうですが、併し、その後の俳優自身の自覺、人格の向上のために今では彼等は押しも押されもせぬ立派な紳士淑女です、我が國でも、さう云ふ種類の俳優が絶無ではありませんが、併し、それは本當に曙の星の數位しか無いので、一般藝人の其の點に關する覺醒はいつのことやら今の處では見當さへ付きません。恐らく、私達の生きてゐる間は望めないことであるかも知れません。

一般國民が藝人界にドシ〳〵刺戟を與へて彼等をして日本國民とし藝術家として遜色無い者と爲さうとするのがものゝ順序でありますが、併し、事實は其れと正反對に彼等の刺戟を受けて一般人が日に〳〵淫奔な空氣に浸されて行きます。その結果が此の頃のうツとうしいお天氣と同じように、なやましくも情ない今日の世相であると思ひます。何と云ふだらしなさであるでせう

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

[illegible]誌代及郵税は前金の事[illegible]送金の際は振替貯金東京五[illegible]三六八八番に御拂込みのこと郵券代用は五厘切手にて一割[illegible]增[illegible]廣告は御照會次第御相談いたします

大正十四年六月廿三日印刷納本
大正十四年七月一日發行
東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN